

事 務 事 業 評 価 シ ー ト

評価対象年度	平成 27 年度
--------	----------

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	児童生徒県南美術展開催費				
担当課係名	平福記念美術館	事業係	作成者	小松 亜希子	
総合計画での位置づけ	施策の大綱	明日を担う人材を育む教育文化のまち			総合計画のページ 100
	基本計画	芸術文化活動の振興と文化財保護			
	主要施策	文化財の保護と後継者の育成			
予算費目	一般 会計	10 款 教育費	5 項 社会教育費	6 目 美術館費	
事業期間	<input checked="" type="checkbox"/> 成 年度 <input type="checkbox"/> 平成 <input type="checkbox"/> 年度		新規/ <input type="checkbox"/> 続の区分 <input type="checkbox"/>		
性質区分	市民サービス	公共事業	施設維持管理	補助金	内部管理
根拠法令等					
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務		<input type="checkbox"/> 法定受託事務		
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直 営		<input type="checkbox"/> 直営 (一部民間委託)	<input type="checkbox"/> 民間委託 (全部)	<input type="checkbox"/> 補 助

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	来館者全員及び県南の小中学生を対象としている。
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	県南児童の美術作品発表の場として38回目となる。児童生徒の健全育成と地域社会の発展を目的としている。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	県南にある小中学校に応募要項を送付し、作品を募集。集まった作品を展示室に展示し、審査会を行い、優秀な作品等を表彰する。

【事務事業の推移】

項 目		単位	26年度実績	27年度実績	
効果	活動指標 目標は県南全校からの出品。 実績は実際の出品校数(校)。	目標	校	109	103
		実績	校	93	87
		達成度	%	85.3%	84.5%
	成果指標 目標の入館者数に対し、 実績は実際の入館者数(人)。	目標	人	2,500	2,500
		実績	人	2,430	2,718
		達成度	%	97.2%	108.7%
投下コスト	項 目	総事業費	26度決算額(千円)	27年度決算額(千円)	
	事業費(人件費を除く)(A)		348	351	
	人 件 費 (B)	—	3,277	3,416	
	職 員 数	—	0.40	0.40	
	職員平均人件費	—	8,192	8,540	
	(A) + (B) 投下コスト	—	3,625	3,767	
	財源内訳	国庫支出金		0	0
		県支出金		0	0
		地方債		0	0
		その他		0	0
		一般財源		3,625	3,767
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)	—	38,978	43,299	
	市民1人当たりのコスト(円)	—	125	133	

【事務事業の今までの成果】

27年度で38回目となるが、小中学校の統廃合により学校数の減少があるものの、27年度は26年度を上回る来館者数となるなど、閑散期に関わらず、観覧者の増加が見られる。また、作品を美術館に展示することにより、児童生徒の美術への興味、関心を深める効果もある。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	県では第55回秋田県児童生徒美術展を開催している。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	出品している児童生徒が家族で観に来ることが多く、冬場の角館の観光にも役に立っている。苦情としては、一般の観光客に見せるものかという意見もある。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
A	A 現状のまま継続（実施）	美術館は市の芸術文化振興にとって必要であるとともに、教育機関としての役割を担っていることから、未来の芸術家の芽を育てる意味でも、県南児童生徒美術展の開催は必要不可欠である。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

【二次評価】

判定	判定に至った理由
A	長く続いている児童生徒美術展は、県南の小中学校で恒例となり、数多くの出品もあり、子供たちにとっても美術館に展示されるのが、誉れと励みになっていると思われます。「小さな画家」たちの中から将来の作家も誕生する可能性を含んでおり、是非継続して欲しいです。

